
ゆ び き り

野 祇 陽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゆびきり

【Nコード】

N6192F

【作者名】

野祇陽

【あらすじ】

約束を破ってはなりません。いつだって、貴方の傍に”小指様”がいるから。

（前書き）

ちよつとだけ、痛い表現らしき物が入つてると思います。

苦手な方は読まない方がいいかと。。

凄く痛々しいわけではないのでご安心を。

（本当にあるかないか解からない感じですので…）

――約束を交わしましょう…？――

指切り拳万

嘔吐したら

針千本 飲ます

小指と小指を絡めて、

約束を交わす。

それを破ってはならない。

この世界は、

約束を破る事は許されない。

「ゆーびきーりげーんまーん

うーそつーいたーら

はーりせんぼんのーますっ!」

「いいい? 約束だよ? 絶対に、破らないでね?

絶対に、誰にも言わないでね?」

「わーかってるよお、失礼だなあ」

そう言っつて、少年と少女は笑い合った。

ごく自然の子供達の会話。

それを見ている影は一体誰の影——? ?

「うそつき。」

そう冷たい声をかける少女――

昨日、少年と約束を交わした少女。

「誰にも言わないでって言ったのに……」

「いめんいめん、つい口が滑ってさ」

少女は怒りの表情をより現わして、

「アンタなんて、”小指様”に呪われちゃえばいいんだ！」

少女は去った

泣きながら去った。

少年はその場に立ち尽くした。

静かに近づく影に気付かず――

「昨日はごめんね、話した私も悪かったのに頭ごなしに怒っちゃっ

て――

あれ――？

どうしたの……？その手……」

「小指様が、持って行っちゃった——」

「……え」

「小指様が、僕の小指を千切っちゃった

お前のせいだよ。

お前が僕に約束なんてさせるからッ……！」

— 約束を交わしましょう…？ —

私は、知りたいのです。

人間は、どれだけの間、

約束を守り続けられるのかを —

END

—あとかき—

始めまして、野祇 陽です。

初投稿、恐らくホラーでやってみました。

ベタだと言わないで下さい。。

私、ベタしか書けません↑

と、とにかく、

この調子で書いて行きたいなあと思っておりますので、

どうぞ長く優しい目で見守って下さると嬉しいです> (—) <

読んで下さり、ありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6192f/>

ゆ び き り

2010年10月11日00時18分発行